

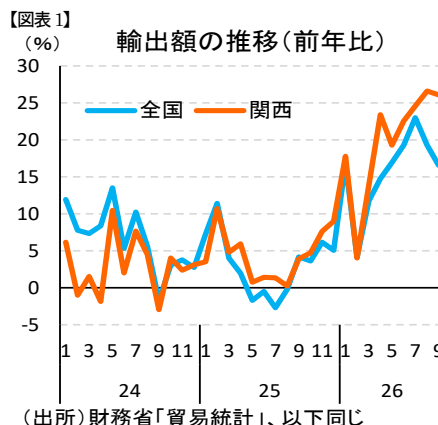
ショートコメント vol.419 (2026 年 10 月 28 日)

テーマ：「中国を除くアジア」向けの輸出が1.5倍に急増
～牽引役はシンガポール。AI 需要の拡大が背景～

●増加が続く輸出の動き

全国、関西ともに輸出の増加が続いている（図表 1）。昨年後半以降、前年を上回る傾向となっており、直近は2ケタを超える増加率となっている。

特に、関西は直近で前年比20%以上の増加が続くなど、全国以上に好調が目立つ。このところの関西の好調は、主に世界的なAI 需要の拡大による影響が大きく、PCやスマホといった情報家電の需要をはじめ、世界的なデータセンターの建設増加も大きな追い風となっている。

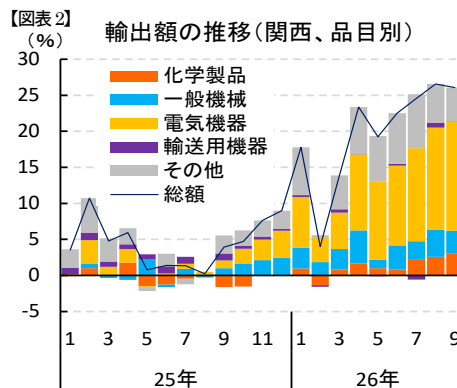


●世界的な AI 需要が追い風に

こうした傾向は、品目別の輸出の動向にも表れている。関西では明らかに電気機器の増加による寄与が大きく、全体の好調をけん引する動きがみられる（図表 2）。この電気機器の大半を占めるのが、世界的な AI 需要に支えられた半導体等電子部品である。

関西の電子部品の輸出額については、全国に占める割合が5割を超えるなど高い優位性をもつ。つまり、世界的な AI 需要による電子部品輸出への追い風は、関西に集中する形となっている。

ただ、AI にまつわる動きについては、ここへきて企業向けのサイバー攻撃が急増するなど、急速な普及に伴う悪影響がみられることも事実である。それに伴い、市場の拡大ペースはやや鈍化する可能性はあるものの、データセンターの建設などを含む、全体的な需要の拡大傾向自体は増加が続くとみられる。これは関西にとって明るい材料であることは間違いない。

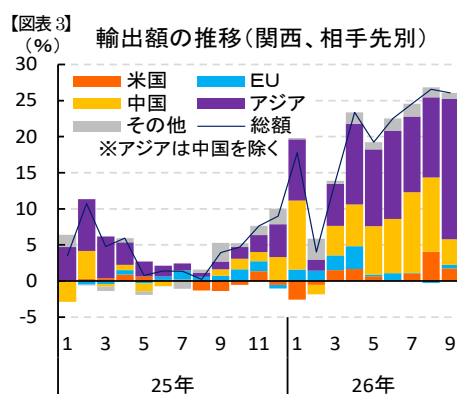


●急増したシンガポール向け輸出

一方、関西の電子部品輸出については、特にアジア向けで大きな増加がみられる（図表 3）。

この傾向は、この半年間で特に顕著な動きとなっているが、とりわけ直近の9月は「中国を除くアジア」が急増している。輸出全体が全体で26%の増加となる中、そのうち中国を除くアジアの寄与度は19ポイントに達するなど、まさに全体をけん引する動きとなっている。

前年比での増加率も48%を記録するなど、まさに急拡大といった動きであるが、その要因としては、シンガポールへの輸出が前年比で3.6倍に増えた影響が大きい。

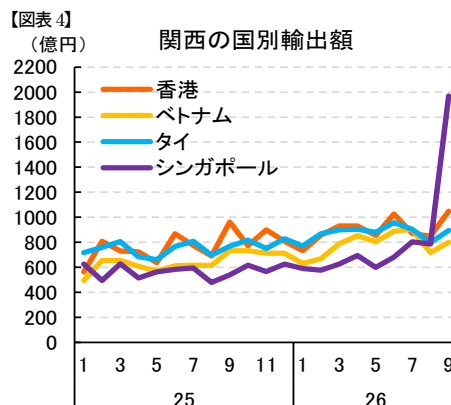


※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

シンガポール向けの輸出額は、これまで月間 500～700 億円で推移していたが、9 月は 1970 億円に急増した。もともと、シンガポールは香港やベトナム、タイに近い水準であったが、この 9 月に一気に増えた様子が分かる（図表 4）。

シンガポール向けの輸出の増加も、全体の動きと同様、基本的には電子部品が担っている。シンガポールでは 9 月に AI 関連の輸出が大きく増えており、それに伴う部品調達の増加につながった可能性が高い。

これまで東南アジア向けの輸出増は、主にベトナムやタイ、マレーシアが担ってきたが、前月頃からシンガポールが大きく伸びてきた。さすがに 9 月の増加ペースが続くとは考えにくいものの、増勢の自体が継続するようであれば、関西の輸出のさらなる押し上げにつながることから、まずは今後の動きが注目されよう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。